路

三年

画数 13

筆順 ⻊ ⻊ 跙 跙 路

オン ロ

クン じ

成り立ち

糸を〝つなぎ合わせる〟といういみをあらわした〝絡（連絡）〟のいみの〝各〟と、足のいみの〝⻊〟とを組み合わせて作った字で、「足をつかって、道と道とをつなぐ〝連絡路〟」をあらわした字です。

広いたいせつな〝みち〟を〝道〟といったのにたいしそれよりせまい、ほじょてきな〝みち〟を〝路〟といいました。それで、これを合わせて〝道路〟というわけです。今は、〝道〟も〝路〟もくべつなくつかうようになりました。

また、「ものごとの〝すじみち〟」といういみにつかわれます。例理路整然とした文章。

〝家路〟〝旅路〟〝山路〟などの〝じ〟という読み方は、〝みち〟がつづまって〝じ〟となったものです。

使い方

▽遊びつかれた子供たちは、三々五々、家路をたどりはじめました。

▽「待てば海路の日和あり」といって、人生、悪いことばかりは続きません。良いこともあれば、悪いこともあるのですから、あせらずに、良い日和を待つ心がまえも必要でしょう。

熟語例

▽通路（通るための道。通り道。「通路に自転車を、おかないようにしましょう」などと、つかいます。）

▽往路（行く時に通る道。行き。対「帰路」「復路」。「伝統の箱根駅伝で、往路の優勝校は、〇〇大学だった」などというふうに、つかいます。）

▽陸路（陸を通る道。対「海路」。今は「空路」もできるようになりました。「陸路は、時間がかかるし、大変だが、ひかくてき安全だ」などというふうに、つかいます。）

▽理路（議論や話などのすじみち。「理路整然」といえば、すじみちがよく通ってわかりやすいことです。）

和

三年

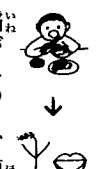
画数 8

筆順 ⺈ 千 禾 和

オン ワ・オ

クン やわ＝らぐ＝らげる なご＝む＝やか

成り立ち



稲がみのり、穂がたれた形をあらわし、〝稲〟のいみをあらわした〝禾〟と、〝口〟とを組み合わせて作った字で、「稲がゆたかにみのり、それが口に十分に入る見こみがあること」をあらわした字です。むかしは、食べものを手に入れることがたいへんで、食べもののためにあらそいがおこりました。それで、稲がゆたかにみのると人の心は〝和やか〟になりました。〝和やか〟といういみをあらわした字です。

〔漢音は、kwaで、呉音はk音の脱落したものである。オは唐音で、室町時代以降に僧侶によって使われたもので、その例は、〝和尚〟くらいである。〕

使い方

▽気候の温和な土地にすむと、人の気もちも和やかになるものと見えて、南の国の人の方が北国の人よりも穏和なようです。

▽和室で和服を着てくらすというように、すべて和風でくらしたいと思っています。

熟語例

▽温和（気候が温かく、和らいでいること。気もちが温かく、和やかないみにもつかいます。）

▽穏和（穏やかで和らいでいること。人のせいしつが〝おとなしい〟こと。）

▽平和（あらそいがなく、世の中の人の心が和やかであること。「国にせんそうがない」といういみにつかわれることが多い。）

▽和室（たたみやしょうじのある日本風のへや。〝日本間〟ともいいます。対「洋室」、「洋間」）

▽和服（日本風の衣服。〝着物〟のこと。対「洋服」）

▽和風（日本風。日本の昔からの風習や風俗。対「洋風」）

▽調和（ことなったものがあるのにつりあいがとれていてかえって和やかであること。）